

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.6.15 No.168 連絡先 FAX 042-555-1911



## 5月29日のパラシュート降下訓練は「合同演習トマホーク」だった

米軍横田基地のホームページ(6月4日)に、5月29日のパラシュート投下物の積み込みシーンが掲載(右)されていました。

ミニ情報No.167でお伝えしたように、5月29日は、無通告で、1日で10回のパラシュート投下訓練が行われていたのです。



米軍横田基地のホームページによると、この合同演習トマホークには、海兵隊の岩国基地や、アラスカ州(エルメンドルフ・リチャードソン基地)の陸軍が参加したようです。

トマホークとは物騒な名前ですが、このような合同演習が事前に知らされることもなく行われています。米軍は、米軍横田基地でどんな訓練をやってもよいと、思っているようです。

## 「サージ 空を制す！」と米軍 横田基地 C-130H 8機で編隊飛行

6月4日、午後4時すぎから、横田基地所属のC-130Hが8機で編隊飛行訓練を行いました。右の写真は、飛行前に、西側誘導路に並んだところ



です。編隊飛行後、2機がそれぞれ1個ずつパラシュート投下をしました。(写真2枚: yokotajoho のブログより)

その後も断続的に、6機編隊で、高々度飛行、急旋回、タッチアンドゴー訓練等を夜10時ごろまで続けました。

この日の訓練、無届けだと思ったら、防衛省(北関東防衛局)から、編隊飛行訓練及びパラシュート降下等訓練を行う旨の情報提供があったそうです。

編隊飛行訓練: 実施日6月4日午後4時30分頃~9時頃。横田基地のC130による編隊飛行。本訓練においては、パラシュート降下等訓練は実施されない予定。予定は変更されました。

6月4日には同時に、6月5~7日にパラシュート降下訓練をするとの情報提供もありました。

6月5日には午後5時30分頃から、4機のC130による編隊飛行や、1機から1名のパラシュート降下訓練が2回にわたり行われたりしました。6,7日の状況はよく分かりませんでした。



## 横田基地所属機C-12に 患者輸送の新しい任務

6月5日、米軍横田基地HPに「横田のC-12 ヒューロン: 小さな鳥は大きな使命を執行」の見出しで記事が出ています。現在、太平洋地域で航空医学避難のために使用されている主要な航空機はC-130HとKC-135です。が、横田基地のC-12の4人の乗組員はテキサスに飛び、航空医学避難機器等を取り付けテストをしたので、新しいC-12Sは、外来患者を転送することができます。空軍の節約になるでしょう。との内容です。(写真: 米軍HP)



## 住民反対のなか ヘリパッドが完成していた 沖縄・高江 (No. 168 の裏面)

右の写真は、QAB 琉球朝日放送によって空撮された N4 ヘリパッドです。「やんばる東村 高江の現状」ブログによると、上の写真の左下に見えるのが N4 座り込みテント A、真ん中下がテント B です。現地に行ったことがある筆者は、写真を見てショックでした。高江の現状を横田基地ミニ情報の読者にも知って頂きたくて、皆さんにご協力頂きました。上記のブログから少し紹介します。

「高江は、約 160 人が暮らすヤンバルの小さな集落です。この集落をかこむように米軍のヘリパッド（ヘリコプター着陸帯）を 6 つ作る工事が、始まっています。高江は米軍のジャングル訓練センターの真横にあります。これでは訓練センターの中に高江があるかようになります。高江では米軍ヘリが低く長く飛ぶのです。これ以上ヘリが飛んだら、しかも新型機オスプレイが飛んだら、高江に人が住めなくなる！と考えた高江の住民が、『自分の家で普通に暮らすため』に、工事現場の入り口で、工事をやめてもらうために座り込みを始めました、と書かれています。

座り込みは、2007 年 7 月から始められ 6 年たちました。

山原（やんばる）は緑豊かで、ヤンバルクイナやノグチゲラなどをはじめ多様な生物の宝庫です。現在、やんばるは野鳥の営巣期間ということで新しいヘリパッドの工事は止まっていますが、7 月から再開されます。高江の現状を知ってください。ヘリパッド反対の座り込みにご支援を！



(ブログ「やんばる東村 高江の現状」より転載 QAB 琉球朝日放送 撮影)

### 沖縄防衛局 辺野古埋め立て補正文書 県に提出 県は告示・縦覧に

沖縄県は今年 3 月 22 日、防衛省沖縄防衛局から、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）を同県名護市辺野古に移設するための公有水面埋立承認申請書を受理しましたが、記述不足があるとして 4 月 12 日に、13 項目 33 件の補正を防衛省に求めています。防衛局は 24 日、2 件（1. 埋め立て用土砂の有害物質の有無などについての調査結果、2. 埋め立てで使用できなくなるおそれがある辺野古漁港の防波堤などへの対応）を除いて対応方針を説明しました。

防衛省沖縄防衛局は 5 月 31 日、辺野古に移設するために提出した埋め立て申請書類に関し、補正の文書を県に提出しました。文書には、埋め立て工事に使う土砂の採取場所や運搬経路などを記載した、としています。が、文書は公表されていません。

沖縄・生物多様性市民ネットワークと公益財団法人 日本自然保護協会は、辺野古の公有水面埋立承認申請書の補正書を市民と社会に公開するよう、沖縄県知事に要望しました。

沖縄県は 6 月 5 日、防衛省沖縄防衛局から回答があった補正文書が適正だったことを確認し、告示・縦覧の手続きに入ると発表しました。告示までの手続きには 3 週間程度かかる見込み。告示後、縦覧は 3 週間で、県庁（那覇市）や県北部土木事務所（名護市）、名護市役所など 9 か所で行い、県のホームページでも縦覧できるようにするそうです。みんなで注視しましょう。

縦覧終了後は、内容審査や名護市長への意見聴取などが行われます。

沖縄防衛局によれば、辺野古沿岸部の埋め立てに必要な土砂は約 2100 万立方メートルですが、現場で調達できるのは 400 万立方メートルにすぎません。約 1700 万立方メートルの砂・岩ズリを「九州、瀬戸内」から購入する方針とされていますが、購入による調達はアセス対象外とか、環境面でも生態系破壊など問題があります。県民の辺野古移設反対は 74.7%です。埋め立ては NO！